

いちご物語

『小諸の情景』

「高浜虚子全俳句集」より 高浜虚子作

虚子が太平洋戦争の戦火を避けて小諸に疎開したのは昭和19年9月厳しく美しい風土に接した虚子の俳句は新たな躍動を見せる。

『ふるさと』より 第12話「草摘みに」島崎藤村作

今から約80年前、藤村がわが子へ書き残した童話。それは自らの思い出から生まれた、家族や自然への慈しみに溢れたふるさと賛歌。ふるさとを懐かしむ人、ふるさとをもたない人へ贈る島崎藤村の児童文学。

「うれしいやくそく」くすのきしげのり作 廣済堂あかつき

きょうはみんなで、わくわくやまにえんそくにいくひです。それなのに、キツネくんはあしをけがしてしまいました…。ともだちっていいな。さりげないおもいやりがうれしい、おはなし絵本。

『もめん随筆』より「我儘散題」森田たま著 ペリかん社

自由な雰囲気札幌に育ち、文学を志して上京、結婚して大阪に住まう。女性エッセイストのさきがけともいべき森田たまが現代的かつ自由な視点で描いた第一エッセイ集。

『小石川の家』より「初めてのお年玉」青木玉著 講談社

祖父幸田露伴、母文と三人で暮らした十年。自らの流儀を貫き通した祖父の晩年を支え、凜とした生き方を引き継いだ母。小石川の家であったことと二人の最期を繊細な筆で綴る、書下ろし長篇エッセイ

『西の魔女が死んだ』梨木香歩著 新潮社

中学生になった少女まいは、学校へ足が向かなくなり、季節が初夏へと移り変わるひと月あまりを、西の魔女のもとで過ごす。

西の魔女である大好きなおばあちゃんから、まいは魔女の手ほどきを受ける。魔女修行の肝心かなめは、何でも自分で決める、ということだった。喜びも希望も、もちろん幸せも……。

『いちご同盟』 三田誠広著 集英社

高校受験と自分の将来に悩み、死さえ考えた良一。野球部の工一徹也を通じて不治の病の少女・直美と出会い、生きる勇気を知った。15歳の少年が見つめる愛と友情と死…

『クリスマス物語集』中村妙子編より 偕成社

「クリスマスローズの伝説」セルマ・ラーゲルレーブ 著

ヨーイングの森の奥の洞穴に住む、どろぼう一家の物語。泥棒一家を改心させるため、森のアジトへ向かう二人の修道士。そこは冬だというのに花園だった……。良心とは何かを考えさせる物語。

『掌の小説』より「藤の花と苺」川端康成著 新潮社

豊富な詩情と清新でデリケートな感覚、そしてあくまで非情な人生観によって独自の作風を打ち立てた著者の、その詩情のしたたりとも言うべき“掌編小説”。若い日から四十余年にわたって書き続けられた、川端文学の精華。



いちごが出てくる本

絵本

「いちご」 平山和子さく 福音館書店

「イチゴの絵本」

きむらまさゆき/へん すぎたひろみ/え 農村漁村文化協会

「いちごばたけのちいさなおばあさん」

わたりむつこ/さく 中谷千代子/え 福音館書店

「きいちごだより」 岸田衿子/文 古矢一穂/絵 福音館書店

「野いちごのたからもの」

田中章義/作 とりごえまり/絵 東京新聞出版局

郷土

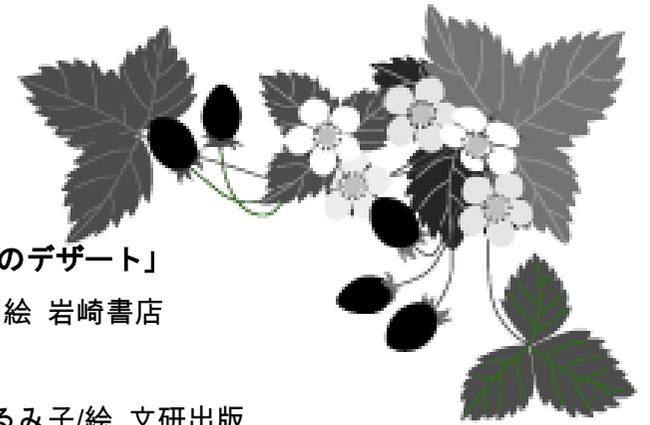
「信濃の民話」 瀬川拓男・松谷みよ子/編 未来社

「塩川伊一郎評伝 ～浅間山麓の先覚者～」

小林収/編著 竜鳳書房

「しあわせ苺 ～八ヶ岳山麓・ぼくの週末村民日記～」

宮崎光/著 森林書房



児童書

「ルルとララのいちごのデザート」

あんびるやすこ/作・絵 岩崎書店

「イチゴがいっぱい」

竹内もと代/作 小泉るみ子/絵 文研出版

「てのひらの味 ～食べ物の俳句～」

村井康司/編 とくだみちよ/絵 岩崎書店

一般書

「枕草子」より 第42段 “あてなるもの” 清少納言/著

池田亀鑑/校訂 岩波書店

「尾崎一雄全集」第12巻 “苺酒” 尾崎一雄/著 筑摩書房

「田辺聖子全集」第6巻 “苺をつぶしながら” 田辺聖子/著 集英社

「おやつ」(アンソロジー) 阿川佐和子(ほか)/著

パルコエンタテイメント事業部

「ことばの果実」長田弘/著 潮出版社

「いちご、空を飛ぶ～輸出でよみがえるニッポンの農～」

古谷千絵/著 ぎょうせい

「食べ物語る～BUNDAN レシピ～」

BUNDAN COFFE & BEER/著 主婦の友社



青い山脈

作詞 西條八十
作曲 服部良一

- 1 若くあかるい 歌声に
雪崩は消える 花も咲く
青い山脈 雪割桜
空のはて
今日もわれらの 夢を呼ぶ
- 2 雨にぬれてる 焼けあとの
名も無い花も ふり仰ぐ
青い山脈 かがやく嶺の
なつかしさ
見れば涙が またにじむ
- 3 古い上衣よ さようなら
さみしい夢よ さようなら
青い山脈 バラ色雲へ
あこがれの
旅の乙女に 鳥も啼く
- 4 父も夢見た 母も見た
旅路のはての その涯の
青い山脈 みどりの谷へ
旅をゆく
若いわれらに 鐘が鳴る

轟屋いっちー紹介

小諸の懐古園で人力車を曳いて早5年。
歌と本とこの町をこよなく愛する轟屋いっちーが
今日のオープニングを指揮で盛り上げます！



朗読駅伝 いちご物語

日時 平成28年3月6日(日)
午後1:30~3:30(予定)
場所 市民交流センター
ステラホール
主催 長野県図書館協会
共催 市立小諸図書館
協力 小諸市農林課
こもろ布引いちご園

プロフィール

朗読 青木裕子
元NHKアナウンサー
2010年「軽井沢朗読館」設立
2013年より軽井沢町立図書館館長就任

演奏 コピーヌクラブ

平成21年結成。
ピアノ(竹鼻恵子)、フルート(椎名真美子)、ヴァイオリン(吉田枝理佳)のトリオ。東信地域を中心に活動中。
H26より小諸市本町のギャラリー紙蔵歩にて自主コンサートをスタート。隔月で、様々な分野のゲストと共に、音楽の可能性と親しみやすさを感じてもらおうと、聞き手と同じ目線での楽しいコンサートを展開中。



プログラム



第1部

合唱

♪ 青い山脈

みんなで明るく唄いましょう！ 一井正樹

ピアノ伴奏 竹鼻恵子

轟屋いっちーと唄おう!

朗読1

第一走者『小諸の情景』

「ふるさと」島崎藤村著

東 澄子

「高浜虚子俳句全集」より

清水 礼子

第二走者『小石川の家』より

「初めてのお年玉」青木玉著

和田 嘉寿子

第三走者「いちご同盟」三田誠広著

竹内 好子

畑 明美

第四走者『掌の小説』より

「藤の花と莓」川端 康成著

中村 峻司

～ 休憩 ～

第2部

演奏 コピーヌクラブ

「剣の舞」 ハチャトゥリアン作曲

「ロンドンデリーの歌」 アイルランド民謡

「情熱大陸」 葉加瀬太郎作曲

本の紹介

市立小諸図書館

朗読2

第五走者「うれしいやくそく」くすのきしげのり作



塩川 清隆

第六走者『もめん随筆』より

「我儘散題」森田 たま著

饗場 けさ美

第七走者「西の魔女が死んだ」梨木香歩著

依田 和子

朗読3

朗読 青木 裕子

『クリスマス物語集』より

「クリスマス・ローズの伝説」セルマ・ラーゲルレーブ作

講評

青木裕子さんより



